

校章とそのデザインの理由・意図



板柳北小学校

1 全体の形

町木「イタヤカエデ」の葉を抽象化した。

「イタヤカエデ」の葉は、小葉七つの掌状葉である。

(また、「七」は北斗の「七」であり、北を象徴する。)

図柄は花びらが組み合わせられるようになっており、その枠(縁)をたどると、ついに元につながり、終わりがなく、途切れることがない。これは、子ども達が互いに強く結びつき、友情と協力と思いやりが永久に続くようにとの願いでもある。

2 二本の水平線

広大な稲田、平野(津軽平野)を表す。

3 三本の垂直線

三つの嶺をもち高くそびえる岩木山の姿であり、大空への果てしない広がりを示す。

また、これは校歌にうたわれる、知育、徳育、体育と三つの基本的な教育の目標を表す。

文字の下方の三本は岩木川である。



板柳南小学校

イタヤカエデ葉の若々しさとりんごの花びらの清楚な感じを表したものである。



小阿弥小学校

雪にほたるをあらわした図案で蛍雪の功をあらわし、小は親子ほたるを模したものである。

校章とそのデザインの理由・意図



板柳東小学校

【配色について】

- ①「東」の文字…成長する農作物（学校）を表す色として緑
- ②太陽とその光芒…稲（教育活動）の実りを代表する色としての黄色
- ③花びらのふちどり…桔梗と沿川を表す色としての青紫

【デザインについて】

- ①板柳町の『町の花』である桔梗をベースにしました。このことで、隣接する五所川原東小学校との紛らわしさをなくし、板柳町の東小学校であることを強調します。
- ②5枚の花びらがそれぞれ学区となる沿川地区の5つの地名（滝井、舘野越、常海橋、夕顔関、五林平）を表すとともに、花びらのふちは、この地区に流れる十川をも表しています。このことで、学校が家庭・地域と連携を深め、教育活動を推進して欲しいとの願いを表します。
- ③桔梗の花芯部分を大きくし、東にのぼる太陽にみたと、『東』の文字を配しました。また、花芯から発する花びらの筋を太陽の光芒とみました。このことで、学校が力強く教育活動を推進し、子ども達の知、徳、体、情、意にわたって調和の取れた発達を保証するものであるように、との願いを表しています。



板柳中学校

1. 中央上部の突起は津軽の象徴、岩木山を表現する。
2. 中央部は「りんご」を配して板柳町を顕示する。
3. 左右に大きく広げた翼は、凧の飛測の様を示し、4つに区分された翼は即ち、4中学校統合により大きくはばたいていて気宇広大な人間像が形成されることを期したものである。
4. 翼は「中」字を表わしているが、「中」は「∞」を変化させたものである。
「∞」は無限大を意味し、それを貫く「中」の形は、真理探究への真摯な態度を表明しているのである。